



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

RACE REPORT



2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

■開催概要

- シリーズ名称 : 第59回 NGK スパークプラグ杯 2023 鈴鹿サンデーロードレース最終戦
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 参加台数 : 総参加台数/239台

ST600R (Revival)	28台
インターJP250	9台
ナショナルJP250.....	29台
インターJ-GP3.....	12台 (HRC NSF250R Challenge.....1台)
ナショナルJ-GP3.....	18台 (HRC NSF250R Challenge.....12台)
ナショナルST600	49台
インターST600.....	18台
ナショナルST1000.....	30台
インターJSB1000	26台
インターST1000	20台
- 開催日 : 2023年11月18日(土)、19日(日)
- 天候/路面 : (18日)曇りのち晴れのち雨/ウェット→ドライ→ウェット、(19日)晴れ/ドライ

※2023年の鈴鹿・近畿選手権鈴鹿サンデーロードレースは、この大会でシリーズ日程を終了いたしました。
2024年の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>



今シーズンが最終開催年となった「ST600R (Revival)」。11月18日(土)は全カテゴリーの公式予選の後、このカテゴリーの決勝レースが行われた



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース



2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

全カテゴリーのシリーズチャンピオンが決定!

鈴鹿サンデーロードレースの2023年シーズンが開幕したのは4月8日(土)のこと。それから数えること7カ月と少し。今シーズンよりシリーズ全体の魅力向上のため、全大会がフルコースを舞台に開催されてきた鈴鹿サンデーロードレースの2023年シーズン最終戦が開催された。

今回は最終戦にふさわしく多くの参加台数を集めた。開幕戦に55台、第2戦に60台、第3戦に44台と、これまで特に多くの参加台数を集めてきたナショナルST600には今回は49台が参加。A・Bの2グループに分けて行われた11月18日(土)の公式予選から熾烈なタイムアタック合戦が披露され、翌11月19日(日)に開催された決勝レースでも最後の最後までひと時も目が離せない展開となった。今シーズンは全てのカテゴリーにおいてチャンピオン決定が今回の最終戦まで持ち越された。そのため、どのカテゴリーの決勝レースでもいつも以上に激しいバトルが展開され、大いに盛り上がった。

18日(土)昼のインターバルにはエントラントやチーム関係者がホームストレート上に集まり、恒例となっている参加者の集合写真撮影が行われた。また、11月17日(金)から19日(日)の3日間にわたり、MFJテクニカルアドバイザーである小澤源男氏によるライディング講習会も盛況のうちに行われた。

鈴鹿サンデーロードレース最終戦は「NGKスパークプラグ杯」という名で親しまれている。日本特殊陶業株式会社のご協賛の元、昭和40年から平成7年まで鈴鹿モトクロス大会として計31回が開催され、平成8年からは鈴鹿サンデーロードレースの最終戦として開催されるようになり、今年はその59回大会だった。全カテゴリーのシリーズチャンピオンが決まったこの伝統の一戦を最後に2023年シーズンの鈴鹿サンデーロードレースは全日程を終了した。

なお、旧型モデルの600ccスーパースポーツによるST600R (Revival) は今年が最終開催年。来シーズン以降の600ccクラスはインター-ST600およびナショナルST600の2クラスによって行われる。今までST600R (Revival) を戦ってきたエントラントはそのいずれか、または全く別のカテゴリーに参戦することになるのか…。

いずれにせよ、2024年シーズンも鈴鹿サンデーロードレースに注目していきたい。



テクニカルアドバイザー講習会はしっかり荷重をかけてタイヤの性能を引き出す方法やタイヤメーカーごとの特性の違いなど、実践的な内容で行われた



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

レースレポート(1)

■インター／ナショナルJP250

公式予選ではナショナルJP250の前田誠司がトップタイムをマーク。それに南博之、野村唯人、藤田武蔵、三浦雄一、田川浩明とナショナルJP250勢が続く。ポールポジションスタートの前田が良いクラッチミートを披露するが、ホールショットを奪ったのは4番グリッドスタートの藤田。2コーナーで前田がトップに浮上する。デグナーカーブ一目で3番グリッドスタートの野村がトップに立つと、その野村が前田以降に1秒343のアドバンテージを築いてオープニングラップを終了。それに藤田、前田と続く。野村は後続を引き離し続けてそのままトップチェッカー。3位入賞を果たした福井宏至がナショナルJP250のチャンピオンに。インターJP250では総合24位の船田俊希がチャンピオンを決めた。



インターJP250表彰式(優勝:土岩直人、2位:林規夫、3位:前田龍哉)



ナショナルJP250表彰式(優勝:野村唯人、2位:藤田武蔵、3位:福井宏至)



ナショナルJP250車両銘柄賞表彰式
(Honda賞:野村唯人、ヤマハ賞:津田雄飛、カワサキ賞:松田洋、BMW賞:松本栄直)



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

レースレポート (2)

■ インター／ナショナルJ-GP3／ HRC NSF250R Challenge

池上聖竜が公式予選で2分23秒418をマークしてポールポジションを獲得。その池上と中谷健心のみが2分23秒をマークする。池上が良いクラッチミートを披露。中谷が出遅れる。池上に続くのは村田憲彦。高橋直輝が村田をパスすると、仲村瑛冬とサイドbyサイドのバトルを展開する。高橋は池上をもパスしてトップに立つ。高橋と池上の2台が後続を引き離すことに成功。岡田陽大が3番手まで浮上して3周目を終了する。再びトップグループは集団に。岡田が一気にトップに立つと、それに池上、中谷と続く。トップに返り咲いた池上が後方を引き離してそのままチェッカー。ナショナルJ-GP3では総合4位の中谷がチャンピオンに。インターJ-GP3では総合6位の松田基成がチャンピオンに輝いた。



インターJ-GP3表彰式 (優勝: 高橋直輝、2位: 松田基成、3位: 村田憲彦)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝: 池上聖竜、2位: 岡田陽大、3位: 中谷健心)



HRC NSF250R Challenge (優勝: 岡田陽大、2位: 中谷健心、3位: 豊田哲慎)



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

レースレポート (3)

■インターST600

長尾健史が公式予選の最後で2分14秒289をマークして千田俊輝を逆転。スタートで大きくウィリーした2番グリッドスタートの千田、ポールポジションスタートの長尾、4番グリッドスタートの酒井隆嗣のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。千田と長尾が後続を引き離してトップグループを形成。酒井と山田尚輝がテールtoノーズの状態で3番手を争う。そこから若干遅れ、小合真士、鈴木慎吾、村瀬豊も5番手を争ってバトルを展開。5周目のシケインで長尾が千田をパスしてトップに。しかし、5周目のスプーンカーブで長尾がオーバーラン。2輪専用シケインでは千田がミスして長尾が単独トップとなる。長尾が独走状態のままトップチェッカー。7位の村瀬がチャンピオンに輝いた。



インターST600表彰式 (優勝:長尾健史、2位:千田俊輝、3位:小合真士)

■ナショナルST600

公式予選のAグループでは平城雄飛が2分17秒427をマーク。続いてBグループでは中堀拓己が2分16秒918をマークして総合トップタイムとなる。チャンピオンの可能性がある中堀、平城、川本宜論がフロントローに並ぶという劇的なスタートに。中堀がホールショットを奪うと、その中堀と平城がバトルを展開。2周目のS字コーナーで平城が中堀をパスしてトップに浮上する。平城は次第に単独トップに。中堀の後方では富江慧と川本がテールtoノーズのバトルを展開。その2台が4周目の130Rでコースアウトしたことにより、岡村建が一時的に3番手となる。中堀が再び平城に追いつくと、8周目のシケインでトップに。中堀がウィナーとなったが、チャンピオンを獲得したのは平城だった。



ナショナルST600表彰式 (優勝:中堀拓己、2位:平城雄飛、3位:川本宜論)

■ST600R (Revival)

ウェット路面にて行われた公式予選では小松孝章が2分32秒650という後続を圧倒するタイムをマーク。それに榊原健二と井上正光が2分34秒で続く。決勝レースでは小松がスタートでミス。2番グリッドスタートの榊原がオープニングラップから後続を引き離しにかかる。榊原はオープニングラップ終了時点で2番手を走る中出敏克以降に3秒982のアドバンテージを築くことに成功。小松が徐々に順位を回復し、中出に続く3番手まで浮上する。130Rあたりで雨が降り始めると小松がペースダウン。森本光哉が3番手となる。その間も榊原は安定した走りを披露。榊原は後続に6秒585ものアドバンテージを築き、このカテゴリーで初優勝を飾ると同時に最後のST600R (Revival) チャンピオンに輝いた。



ST600R (Revival) 表彰式 (優勝:榊原健二、2位:中出敏克、3位:森本光哉)



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース



2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

レースレポート (4)

■ナショナルST1000

2番手以降を4秒以上引き離す2分16秒220をマークしてポールポジションを獲得したのは樽見隼。ポイントリーダーの中尾泰三は5番グリッドからのスタートとなる。樽見がスタートで失敗。2番グリッドからスタートしたランキング2位の村田司が絶妙なクラッチミートを披露してホールショットを奪うと、オープニングラップから後続を引き離しにかかる。村田、3番グリッドスタートの池田寛之、中尾のオーダーでオープニングラップを終了。中尾が池田をパスするが、順位を回復した樽見がその中尾と池田の背後に接近する。6周目になると池田、中尾、樽見がパックに。樽見は中尾、池田を立て続けにパスする。樽見がファイナルラップで村田を逆転して優勝。村田のチャンピオンが決定した。



ナショナルST1000表彰式 (優勝:樽見隼、2位:村田司、3位:池田寛之)

■インターJSB1000/ST1000

開始直前に雨が降り始め、ウェット宣言が出されて行われた公式予選では大久保光が2分24秒496という2番手以降を圧倒するトップタイムをマーク。決勝レースのスタートでは5番グリッドスタートの山中将基がその大久保をアウトから抜く。山中をパスした大久保、山中のオーダーでオープニングラップを終了。その2台は3番手以降を引き離しながらバトルを展開する。羽根巧が3番手を走る遠藤晃慶の背後に接近。その2台の背後に加藤高史も迫る。大久保はファステストラップを更新しながらトップを独走。しかし8周目、転倒したマシンが複数台あったことにより、赤旗提示によりレースが終了、大久保の優勝が決まった。JSB1000では加藤がチャンピオン。澤村がインターST1000のチャンピオンに輝いた。

(仮表彰は中止となりました)

インターJSB1000表彰式 (優勝:大久保光、2位:山中将基、3位:羽根巧)

インターST1000表彰式 (優勝:澤村元章、2位:可部谷雄矢、3位:花村峻一)



第59回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース



2023 NOVEMBER

18 SAT. - 19 SUN.

Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-

Voice of Pick up Riders -SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光った
ライダーに—問—答—

この日、キラリと光ったライダーに—問—答—
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルST600で優勝した

中堀 拓己 選手

(Taira Promote Racing jr./YAMAHA YZF-R6)



Q. 公式予選ではBグループのトップタイムをマーク。総合でもトップでポールポジションを獲得しました。

A. 前日に新しいフロントフォークを試しましたが、ウェット路面だったため、よくわからないままでした。予選も路面温度が低くて難しいコンディションでしたが、自分のライディングをマシンに合わせ込み、最後の最後で良いタイムを出すことができました。

Q. 決勝レースでは2周目に平城雄飛選手に抜かれ、若干離されましたが、終盤に再び追いつきました。

A. レースの序盤は厳しく、抜かれてからは1秒ほど離されました。タイヤも滑っており、何度か転倒しかけてましたが、その都度耐えました。最後の方は腕がパンパンになりましたが、平城選手の少し後方で走りを観察し、最後は心を決めて挑みました。

Q. 鈴鹿のレースで初優勝でしたね。来シーズンの体制は決まっていますか。

A. またST600を走るかST1000に乗るか、まだ決まっていません。1000ccは何度か乗ったことがありますが、体力も必要ですし、乗り方も難しいです。どちらのカテゴリーを戦うにしてもオフシーズン中に身体を作って臨みたいと思います。